

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 ネットワーク

- 5 首都高速道路の将来像
政策研究大学院大学 特別教授 / 運輸政策研究所 所長
森地 茂
- 10 円滑なネットワークを目指して
交通ジャーナリスト
清水草一
- 12 コラム 道 最相葉月
- 14 CHALLENGE
「バーチャルハリウッドプログラム」の導入
- 15 データ物語
首都高ネットワークは
こんなに利用されている!
- 16 首都高HEADLINE
- 18 business essay
セカンドホーム・ツーリズムのすすめ
北海道大学 観光学高等研究センター長
石森秀三
- 20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
小嶋俊之
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
illustration by Keika Nakajima
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited

首都高を走って横浜方面へ行くときは、おきまりのBGMがある。横浜を舞台にした曲は「ブルー・ライト・ヨコハマ」(いしだあゆみ)とか「よこはま・たそがれ」(五木ひろし)とかサザンのいくつかの曲……数あるけれど、僕が最良にしているのは平山三紀。彼女の曲にも「ビューティフル・ヨコハマ」や「真夜中のエンジェル・ベイビー」と、横浜が描かれたものが何曲かあって、ジャジーな声質、橋本淳の都会的な詞、筒美

column | RAMPWAY

首都高名所案内③

横浜 中華街ドライブ

コラムニスト
泉 麻人

京平のモダンなサウンドがエキゾチックな横浜の雰囲気にとてもよく合っている。

毎年2月に「ヨコハマ映画祭」というのが催されるのだが、妻の知人が関わっていることもあって、このときに訪ねる機会が多い。横浜公園で首都高を下りて、関内ホールで映画祭(受賞式と優秀作品が上映される)を観て、中華街で夕食を味わう、というのが定番のコース。

横浜というのは不思議な街で、中心部の道はほぼマス目状に区画されているのに、何度行っても方向感覚を失ってしまふ。いつもだいたい道に迷って、ようやく中華街のどこかの入り口に出くわす。

大型店には専用の駐車場も備えられているけれど、ここ数年よく使うのは、中華街パーキングというビル建ての駐車場だ。各地に中華街はあるけれど、この横浜山下町ほどの規模の所はちょっと他にない。メインストリートの入り口から漢字のネオン看板が延々と続く様は、まさにチャイニーズテーマパークといった雰囲気。そして、僕がとりわけ好きなのは、メインストリートに小さな口を空けた香港路、上海路……といった路地。こういう狭い路地端の店について入ってみてみる。

オカユが有名な店、点心がウリモノの店……人気の店はいくつかあるけれど、何軒かの店がやっている。香港ヤキソ

バグってのが大好物なのだ。上海ヤキソバと銘打っている所もあるが、やや硬めの細麺を濃い口のシウウユで炒めたタイプ。具はニラかモヤシが入っているくらいで、実にシンプルなヤキソバである。発祥は香港にしろ上海にしろ、どこもな浅草の大衆食堂のソースヤキソバに似た作りなのも面白い。他の町の中華街でもこの種のヤキソバを味わったことはあるけれど、これに関しては中華街の路地店が圧倒的にウマイ!

食後に中華街をそぞろ歩くのも楽しい。派手な色合いをした中国調の寺に立ち寄るのもいいし、腹に余裕があれば肉マンを買い食いするのも嬉しい。しかし、ここ数年来の不況とファーストフードの浸透のせいもあるのか、肉マンの類を立ち売りする店はぐっと増えた感がある。

そして、最後のシメに乾物屋やスイーツ店に寄って、中華香辛料やピータン、月餅、肉マン、アンマン……を買いこむ。帰路の車内は中華食品から発散されたニオイが充満し、シャレたBGMも色なしだが、それもまた横浜ドライブならではのエンディングといえる。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京ふつうの喫茶店』(平凡社)がある。

